

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	専攻実技 3	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース			開設期	前期
対象年次	2 年次	科目区分	必修			時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習				
教科書/教材	なし。参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	小野・夏野・青木・高橋・澤田				実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン	
学習目的							
1年次に習得したヴォーカリストとしての個性をより徹底的に伸ばし、高いクオリティーで表現できる作品制作を目指す。そのためには学生各自が目指すサウンドの探求のみならず、幅広い知識、様々なスキルが求められる。本授業では各専攻に分かれ各教員が個別に指導し、オリジナル曲の作成やライブで必要なパフォーマンスなどを指導する。また、他コース学生との、共作、アレンジ作業、演奏や歌の録音作業等のコラボレーションを積極的に実施することにより、柔軟な対応力、幅広い視野を身につける。							
到達目標							
学生各自がイメージするオリジナル作品の完成に向け、個性や歌唱力、パフォーマンス力の向上を目標とする。また、短時間でのレコーディング能力や基本的な音楽理論の学習、既存楽曲の分析により多様なメロディ、コード進行、リズムパターン、アレンジアイデアを生み出せる能力を身につける。前期にワンコーラス楽曲を2曲、後期にフルコーラス楽曲2曲の完成を目指す。							
教育方法等							
授業概要	2年生においては、1年次に作ったオリジナル曲のブラッシュアップや、新規のオリジナル曲の作成にも取り掛かる。各自のイメージを具体化したテーマを持った楽曲制作をし、講師はそのクオリティを上げるべく個別に指導する。他コース学生と共同での楽曲制作、歌や楽器の録音、エディットやミックス作業ののち、定期的な授業内発表をおこなう。各学生の個性、音楽経験、コラボレーション相手により様々な状況に直面するが、作業をしながらその都度必要なスキルを身につける。						
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。USBメモリー、ヘッドフォン、変換アダプター、ノート、五線譜を持参すること。学生個人が所有するPC、スマートフォン、タブレットを用いた学習を行う際はその使用を適宜許可する。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験	10%	試験と課題を総合的に評価する。				
	授業内発表	10%	授業時間内におこなう試聴会、内容について評価する。				
	提出物	50%	授業内容の理解度を確認するために実施する。				
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1 回	オリエンテーション			部屋わけ、各部屋で課題曲決め			
2 回	個別レッスン			オリジナル曲が歌唱できる。			
3 回	個別レッスン			オリジナル曲が歌唱できる。			
4 回	個別レッスン			オリジナル曲が歌唱できる。			
5 回	個別レッスン			オリジナル曲が歌唱できる。			
6 回	個別レッスン			オリジナル曲が歌唱できる。			
7 回	個別レッスン・オリジナル曲1-1			プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音準備ができる。			
8 回	個別レッスン・オリジナル曲1-2			プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の演奏ができる。			
9 回	個別レッスン・オリジナル曲1-3			プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音ができる。			
1 0 回	個別レッスン・オリジナル曲1-4			プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の編集ができる。			
1 1 回	個別レッスン・オリジナル曲2-1			プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音準備ができる。			
1 2 回	個別レッスン・オリジナル曲2-2			プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の演奏ができる。			
1 3 回	個別レッスン・オリジナル曲2-3			プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の録音ができる。			
1 4 回	個別レッスン・オリジナル曲2-4			プレイヤー・サウンドクリエイターの学生と共同でオリジナル曲の編集ができる。			
1 5 回	まとめ			全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	専攻実技 3
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	前期
対象年次	2 年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	なし。参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	永田、藤崎			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン
学習目的					
1年次に身につけた、クオリティの高い楽曲をスピーディーに制作できるスキルをさらに磨き上げることを目的とする。学生各自が決めたテーマへの精度の高い実現力、コラボレーション相手との共同作業方法を身につけるとともに、より深い知識、高い技術、柔軟な対応力を身につけることができる。本授業では講義のほか各自cubaseで制作し、定期的な授業内発表により、締切に向けた作業工程の組み立てを自分なりに考えさせ「世の中に向け発表する」とはどういうことかを体感できる。他コース学生との共作、アレンジ作業、演奏や歌の録音作業等のコラボレーションを積極的に実施できる。					
到達目標					
自身で制作した音色やテンプレート、プリセットの活用により素早いcubaseが操作できる。楽曲構成とアレンジのヴァリエーションを学び、広い視野での個性的な作品制作ができる。高度な音楽理論の学習、多ジャンルの楽曲の分析により多様なメロディ、コード進行、リズムパターン、アレンジアイデアを生み出すことができる。ボーカル、楽器のフレキシブルな録音方法、高度なミックススキルの習得により、1年次よりさらにクオリティの高い作品の提出と発表ができる。前期、後期にフルコーラス2曲ずつの完成を到達目標とする。					
教育方法等					
授業概要	学生各自がcubaseを使用し、各自のイメージを具体化したテーマを持った楽曲制作をおこなう。講師により楽曲のクオリティを上げるべく指導を受けることができる。適宜、音楽知識、制作技術、その他弱点補強の講義もおこなう。他コース学生と共同での楽曲制作、歌や楽器の録音、エディットやミックス作業ののち、定期的な授業内発表をおこなう。各学生の個性、音楽経験、コラボレーション相手により困難に直面した場合でも、作業をしながら問題解決するスキルを身につけていく。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。USBメモリー、ヘッドフォン、変換アダプター、ノート、五線譜を持参すること。学生個人が所有するPC、スマートフォン、タブレットを用いた学習を行う際はその使用を適宜許可する。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	10%	試験と課題を総合的に評価する。		
	授業内発表	10%	授業時間内におこなう試聴会、内容について評価する。		
	提出物	50%	授業内容の理解度を確認するために実施する。		
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する。		
授業計画（1 回～1 5 回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	cubaseの効率的な使用方法		自分で作った音色やテンプレートを使った、効率的かつ個性的な操作方法の習得。		
2 回	1曲目のモチーフと骨組み作り		メロディ、コード、リフ、リズムパターン等、きっかけとなるモチーフから骨組みを作る。		
3 回	フルコーラスの骨組み作り		骨組みからフルコーラスに発展させ、アレンジを詰めていく。		
4 回	歌や楽器の録音		ボーカルや楽器の録音をする。		
5 回	フルコーラスの完成		録音したものを整理し、エディット等をおこなう。		
6 回	完成曲のミックスと提出		仕上げとしてブラッシュアップし、ミックスし、提出する。		
7 回	完成曲の授業内発表		完成曲を学生全員で聞き、講師が個別にアドバイスする。弱点補強の講義。		
8 回	楽曲の詳しい仕組み		メロディとハーモニーの関係、ドラムとベースの関係など、楽曲の詳しい仕組みを講義。		
9 回	アレンジの詳しい仕組み		アレンジのバリエーションと、それぞれの詳しい仕組みを講義。		
1 0 回	高度なミックスについて		サイドチェーン、オートメーションの使用等、ミックスの高度な技術の講義。		
1 1 回	2曲目のモチーフと骨組み作り		メロディ、コード、リフ、リズムパターン等、きっかけとなるモチーフから骨組みを作る。		
1 2 回	フルコーラスの骨組み作り		骨組みからフルコーラスに発展させ、アレンジを詰める。		
1 3 回	2曲目の歌や楽器の録音		ボーカルや楽器の録音をする。		
1 4 回	フルコーラスの完成		録音したものを整理し、エディット等をおこなう。		
1 5 回	完成曲のミックスと提出		仕上げとしてブラッシュアップし、ミックスし、提出する。		

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	専攻実技 3	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科		コース名	プレイヤーコース ギター専攻		開設期	前期
対象年次	2 年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	1 単位		授業形態	実習			
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。						
担当教員情報							
担当教員	恒枝			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン、エンジニア		
学習目的							
オリジナル曲を作成できるよう、アレンジの基本となるギターの奏法や知識を学ぶ。 ギターの実技指導と並行し、他コース学生とのコラボレーションを行い、随時作品制作も行う。他コースの学生とのレコーディングも行うため、リズムキープやコードチェンジのタイミング、曲に適した音作り、ノイズの処理等、完成度の高い演奏技術を獲得する。必ずしもギターパートが1本であるとは限らないため、ヒット曲を生み出したアーティストの楽曲を参考に、各ギターパートの演奏を学び、「オリジナル曲を完成させる」ということを目的とする。							
到達目標							
音楽活動、アーティスト活動をしていく上で、曲を作り、磨き上げて形にしていくことはごく当たり前のことである。バックイングの技術や歌を生かす演奏、リードシートのコードを読み解きながら、最適なコードポジション、テンションの活用や、カポタストを利用したオープンボイシングでの奏法等をベースとしながら、オリジナル曲を完成させるよう指導できる。レコーディングに対する知識を得ることや、他の楽器の演奏内容に注意して各パートを尊重しあえるようなプレイスタイルを獲得することを到達目標にしている。							
教育方法等							
授業概要	他コースの学生とコラボレーションしながらオリジナル楽曲を作成する。各々が別の楽曲を扱うため、制作を行う学生はレコーディング可能な教室で他コースの学生と共に楽曲作りを行う。それ以外の学生は授業ごとの課題を設け練習をおこなう。既存曲を題材にし、個々の演奏技術やスタイルに注意しながら、基本的な演奏はもちろん、個々のオリジナリティーが楽曲に反映できるよう、常に向上心を持って演奏技能を発展させることを目指す。						
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験	0%					
	小テスト	0%					
	提出物	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	40%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1 回～1 5 回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1 回	1 年次の復習(1)			1 年次の知識とテクニックの復習。指板の音の配置を理解できる。			
2 回	1 年次の復習(2)			1 年次の知識とテクニックの復習。コードフォームを組み立てることができる。			
3 回	課題曲 #1 各パートの把握			課題曲「このまま君だけを奪い去りたい / DEEN」 リードシートを読んでコードを理解する。			
4 回	オンコードを含むコード(1)			オンコードを含むコードをパワーコードで演奏できる。			
5 回	オンコードを含むコード(2)			オンコードを含むコードをパワーコードで演奏できる。			
6 回	アルベジオ(1)			クリーンアルベジオを演奏できる。			
7 回	アルベジオ(2)			クリーンアルベジオを演奏できる。			
8 回	リードプレイ(1)			オブリやギターソロを組み立てられる。			
9 回	リードプレイ(2)			オブリやギターソロを組み立てられる。			
1 0 回	課題曲 #2 各パートの把握			課題曲「栄光の架橋 / ゆず」 リードシートを読んでコードを理解する。			
1 1 回	オンコードを含むコード(3)			オンコードを含むコードをパワーコードで演奏できる。			
1 2 回	オンコードを含むコード(4)			オンコードを含むコードをパワーコードで演奏できる。			
1 3 回	アルベジオ(3)			クリーンアルベジオを演奏できる。			
1 4 回	アルベジオ(4)			クリーンアルベジオを演奏できる。			
1 5 回	まとめ			全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	専攻実技 3	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科		コース名	プレイヤーコース ベース専攻		開設期	前期
対象年次	2 年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	1 単位		授業形態	実習			
教科書/教材	毎回講師手書きの譜面を配布する。オリジナル作品制作からの曲がある場合にはそちらを使って実際にベースラインを作成する。						
担当教員情報							
担当教員	高橋			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的							
ベースを演奏する技術を習得する事はもちろん大切だが、本授業ではそれに加えて自分でゼロから作品を生み出せる、もしくはそれが難しくても他の作曲者の作品にアイデアを盛り込んで作品の質を上げることができるベーシストを目指して行く。歴史上の様々な作品に触れて、フレーズだけではなくそのコンセプト（例えば同じEでもサビまで4弦の開放弦を敢えて弾か無い事等）を理解し、自身の創る作品や、関わる作品に応用して行く。その為にベースだけでなく、ギターやキーボード、歌やコーラス、ドラムやパーカッション、ストリングスやホーンなど他の楽器の役割、音楽が全体としてどう成り立っているのかに常に気を配れるベーシストになる事を目的とする。							
到達目標							
まずは題材となっている楽曲が（それが既存曲であってもオリジナルであっても）、どんなビート、グルーヴで、どんなハーモニー構造を持っているか（例えば3和音中心のシンプルな物なのか、テンションを含むような複雑なハーモニーの物なのか、そして横の流れで楽曲構成、各セクションの中の小節数等が一般的な物なのか、それともやや個性的な物なのか）を判断する。ここで理想的には何か既存曲で近いものが頭に浮かぶ事が望ましい。その中から自分独自のアイデアも含めつつ、楽曲の良さがより引き立つであろうベース・ライン、プレイを自から創り出していけるようなベーシストを目指す。							
教育方法等							
授業概要	他の楽器の専攻実技と連携する事も考慮に入れ、ベーシストの視点からだけで楽曲を考えず、あくまでもベースは楽曲の1要素に過ぎないと考える癖をつける。当然ベーシストの最低限の役割である、しっかりとしたパルスでグルーヴを主導して行く、コード感をはっきり提示する（逆に必要な時には敢えてぼかす）、フィルやリーディング・ノート等で楽曲のヨコの流れも主導して行く、と言った技能もどの場面でも確実に出来るようにして行く。						
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は評価しない。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 （口頭・実技）	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1 回	主にルートで構成されるベースライン(1)			参考曲：POPフジファブリックの「若者のすべて」ほぼルートだけ（分数コードを含む）で8ビートのベースラインを弾ける。			
2 回	主にルートで構成されるベースライン(2)			参考曲：チェット・ベイカーの「My Funny Valentain」。ほぼルートだけでスイングのベースラインを弾ける。			
3 回	主にルートで構成されるベースライン(3)			参考曲：TOTOの「Georgy Porgy」。ほぼルートだけで16ビートのベースラインを弾ける。			
4 回	5度を使ったベースライン(1)			参考曲：The Rolling Stonesの「Paint It Black」。ほぼルートと5度だけで8ビートのベースラインを弾ける。			
5 回	5度を使ったベースライン(2)			参考曲：ヘレン・メリルの「You'd Be So Nice To Come Home To」。ほぼルートと5度だけでスイングのベースラインが弾ける。			
6 回	5度を使ったベースライン(3)			参考曲：The Eaglesの「Hotel California」。ほぼルートと5度だけで16ビートのベースラインを弾ける。			
7回	3度を使ったベースライン(1)			参考曲：U2の「New Years Day」。ほぼルートと3度だけで8ビートのベースラインを弾ける。			
8回	3度を使ったベースライン(2)			参考曲：Red Garland Trioの「C Jam Blues」。3度を混ぜてスイングのベースラインを弾ける。			
9 回	3度を使ったベースライン(3)			参考曲：Bob Marleyの「Stir It Up」。3度を混ぜて16ビートのベースラインを弾ける。			
1 0 回	7度を使ったベースライン(1)			参考曲：The Whoの「My Generation」。7度を混ぜて8ビートのベースラインが弾ける。			
1 1 回	7度を使ったベースライン(2)			参考曲：今までの曲に7thw混ぜてみる。7度を混ぜてスイングのベースラインが弾ける			
1 2 回	7度を使ったベースライン(3)			参考曲：Sly And Family Stoneの「Sing A Simple Song」。7度を混ぜて16ビートのベースラインが弾ける。			
1 3 回	△7コードで濁らないようにする工夫			参考曲：Marvin Gaye「What's Going On」。もっと高い音域の楽器がルートを弾いた時に濁らないよう気をつけながらベースが弾ける。			
1 4 回	SUS4コードで濁らないようにする工夫			参考曲：The Who「Pinball Wizard」。コード楽器がsus4を弾いている時にメジャー3rdを弾いて濁らせてしまわずにベースが弾ける。			
1 5 回	まとめ			全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	専攻実技 3	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科		コース名	プレイヤーコース　ドラム専攻		開設期	前期
対象年次	2 年次		科目区分	必修		時間数	30時間
単位数	1 単位		授業形態	実習			
教科書/教材	なし						
担当教員情報							
担当教員	田原			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン、インストラクター		
学習目的							
複数のラテンパーカッションの基本的な奏法や役割について学び、正しいフォームを習得することで演奏の幅を広げる。 ラテン系パターンを習得することにより四肢の独立を図り、また変拍子やポリリズムで拍の捉え方について学びながら、「自分の弱点や苦手分野の理解・把握」、「個々の個性を伸ばす事」を常に意識して学ぶ。その結果としてバンドミュージシャン、サポートミュージシャン、スタジオミュージシャンなど、あらゆる形でのデビューでも現場での様々な要求に対応できる知識、技術を身に付けることを目的とする。							
到達目標							
ドラムの実技に関して、以下の3点のスキルを獲得する事を到達目標とする。 1.授業内で学んだビートやルーディメンツを自分なりに応用し、個性を活かしたアプローチを構築し、表現する事が出来る。 2.今後あらゆるジャンルに対応出来るように、ジャンルごとのビートパターンやアプローチを理解し、即座に対応が出来る。 3.楽曲のイメージや、演奏環境を考慮し最適な音作り（チューニング）が出来ることが目標である。							
教育方法等							
授業概要	プロミュージシャンとしての最低限の演奏スキルを指導しながら、学生一人一人が抱える悩みや弱点を常に確認し、その改善の為に最良な方法を提示する。またヴォーカリストコース、サウンドクリエイターコースの「オリジナル作品制作」の授業と連携し、ギター、ベース、キーボードなどの他楽器の学生と協力しながらオリジナルの楽曲を完成させる。その為の、楽曲に対するリズムアレンジ能力やレコーディング時における注意点、セオリーを指導し、個性を活かした楽曲作りに取り組む。						
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技能の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。						
評価方法	種別	割合	備　考				
	試験	20%	試験と課題を総合的に評価する				
	小テスト	0%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	30%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容			各回の到達目標			
1 回	ボサノヴァの基本パターンの習得			ボサノヴァ演奏時における基本パターンとアプローチを習得する。			
2 回	ラテンパーカッションの理解			ジャンベ、コンガ、ボンゴ、シェイカー、カウベル等の基本奏法や役割について理解する。			
3 回	サンバの基本パターンの習得(1)			スネアとフロアタムのみで16分のアクセントを用いたパターンを習得する。			
4 回	サンバの基本パターンの習得(2)			ライド、スネアでそれぞれが独立したリズムを刻むパターン1を習得する。			
5 回	サンバの基本パターンの習得(3)			ライド、スネアでそれぞれが独立したリズムを刻むパターン2を習得する。			
6 回	ソングの基本パターンの習得(1)			ゴーストノートを絡めたハーフタイムシャッフルビートパターンを習得する。			
7 回	ソングの基本パターンの習得(2)			レゲェで使用する基本パターンとアプローチを習得する。			
8 回	変拍子についての理解(1)			3/4拍子上でのバックビートを解釈と、8分音符を4つ割パターンを習得する。			
9 回	変拍子についての理解(2)			5/4拍子上でのパターンアイディアを習得する。			
1 0 回	変拍子についての理解(3)			7/8拍子上でのパターンアイディアを習得する。			
1 1 回	ポリリズムについての理解(1)			1拍半フレーズついでの理解と、アプローチパターンを習得する。			
1 2 回	ポリリズムについての理解(2)			16分音符を3つ割りフレーズについての理解と、アプローチパターンを習得する。			
1 3 回	ポリリズムについての理解(3)			3連符を4つ割りフレーズについての理解と、アプローチパターンを習得する。			
1 4 回	ポリリズムについての理解(4)			16分音符を5つ割りフレーズについての理解と、アプローチパターンを習得する。			
1 5 回	まとめ			全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）		科目名	専攻実技 3	
科目基礎情報							
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース キーボード専攻		開設期	前期	
対象年次	2 年次	科目区分	必修		時間数	30時間	
単位数	1 単位	授業形態	実習				
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書：キーボードバックイングまる覚え、ジャズ無窮動トレーニング						
担当教員情報							
担当教員	堀越			実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的							
次世代をリードするプロフェッショナル・キーボーディストになる上で必要となるものは、運指等のテクニックだけではなく、コード、スケール、リズム（グルーブ）を実践的に理解して演奏していくことである。この授業では、学生個々の音楽の方向性を考慮しながらも、ジャズの要素も積極的に導入しつつ演奏技術を習得していくが、同時に音楽史に残る名曲、名演奏のエッセンス、時代によって変化するポップ・ミュージックの本質に接する中で現代的センスを吸収させ、よりクオリティの高いオリジナル作品を完成することも合わせて目的とする。							
到達目標							
次世代型キーボーディストのモデルとして、Cory Henry、Robert Glasper、Jacob Collier を設定し、彼らの持つ演奏テクニックの完全な再現ではなく、彼らの持つJazz的要素、R&B的要素を理解し、自らの音楽性に生かしていけるキーボーディストを目指す。最終的（2年次終了時）には基礎的なJazzハーモニーおよびフレー징の定着を図る（同時に差異点を明らかにすることでRockやJ-POPなどにも対応する）。同時にオリジナル曲の作曲、オリジナルアレンジの質を高めていくことを目標とする。							
教育方法等							
授業概要	キーボーディストが演奏の現場で要求されるのは、まずマスターリズム譜などの簡単な譜面を見ながら、そこに記してあるコードネームやリズムの「キメ」に沿って演奏し、そして場合によっては指定箇所ですソロをとることである。そういう現場での対応力をつけていくため、2年次においては1年次において身に着けた基本的なコードワークとグルーブやBluesフレーズに加え、Jazz理論に基づいた応用的なコードワークとBeBopフレーズ、モーダルなフレーズまでを習得していく。						
	学生ではあっても「表現者」の一人としての積極的な授業参加を求めたい。授業中の私語や横柄な受講態度が望ましくないことは言うまでもないが、自分の精神を委縮させてしまっは十分以上の表現をすることはプレイヤーにとって難しい。アンサンブルないし音楽的コミュニケーションとは良好な人間関係と本質的に同義だと理解し、講師や友達と良好な関係を築くように努力すること。理由のない遅刻や欠席は認められない。授業時数の4分の3以上出席しない者は学期末評価の対象とはならないので注意すること。						
評価方法	種別	割合	備 考				
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する				
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する				
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する				
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する				
授業計画（1回～15回）							
回	授業内容		各回の到達目標				
1 回	1年次専攻実技内容の復習		リズム（グルーブ）、長三和音基本形の平行移動、四和音の転回形／両手フォーム、モードなどが出来る。				
2 回	Root+3rd+7thボイスニング(1)		テンションコードを弾く時にも重要になる「Root+3rd(or sus4)+7th」ボイスニングを理解することが出来る。				
3 回	Root+3rd+7thボイスニング(2)		「Root+3rd(or sus4)+7th」ボイスニングを各種コード進行、具体的な楽曲上で弾くことが出来る。				
4 回	各種V7と対応スケール		各種V7（ドミナント7th）コードとそれぞれに対応するスケールを理解し、弾くことが出来る。				
5 回	II-V-I でのボイスニング(1)		「IIIm7-V7-I△7」（Aパターン／Bパターン）を理解し、平行移動させて弾くことが出来る。				
6 回	II-V-I でのボイスニング(2)		「IIIm7-V7-I△7」V7部分を「♭13th+♭9th（or ♯9th）」「13th+♭9th」でも弾くことが出来る。				
7 回	II-V-I でのボイスニング(3)		「IIIm7-V7-I△7」IIIm7部分をIIIm7♭5に、I△7部分をIm7(9)あるいはIm6(9)に置き換えることが出来る。				
8 回	裏コード（裏ドミナント）		裏コード（裏ドミナント）を理解し、弾くことが出来る。				
9 回	3rd+7th+テンション		ジャズコードの左手ボイスニングの基本形について学び、弾くことが出来る。				
1 0 回	ジャズ・ブルース(1)		12小節ブルース（基本／Rock的／Jazz的）のコード進行、コードボイスニングについて理解することが出来る。				
1 1 回	ジャズ・ブルース(2)		実際のブルース曲（各種キー）に基づき、両手によるコードバックイング（Pf単独）に習熟することが出来る。				
1 2 回	ジャズ・ブルース(3)		実際のブルース曲（各種キー）に基づき、左手でコードを弾き、右手でソロをとれるようにすることが出来る。				
1 3 回	ジャズ・ブルース(4)		ブルース曲演奏の練習を進めていくことが出来る。				
1 4 回	ジャズ・ブルース(5)		ブルース曲の演奏に習熟していくことが出来る。				
1 5 回	まとめ		前期のまとめ				